

報 館 おかだ

きれいな
環境づくりに
努めよう



岡田の米作りの現状は？ 令和の米騒動

岡田の主力品種「コシヒカリ」の他「つきあかり」「あきたこまち」の収穫も10月上旬には終わり、籾の乾燥を行う女鳥羽ライスセンターの稼働も終了しました。JA松本ハイランド女鳥羽支所の飯沼さんの話では、夏の高温の異常気象、水不足の影響があり、例年より品質的には落ちてはいるものの単位面積当たりの収量は増加したそうです。



昔より水不足で悩まされていた岡田の地は女鳥羽川から水を引き、六助池、塩倉池など溜池を作りながら稲作に励

んできました。しかしながら、従事する専業農家、あるいは兼業農家の皆さんの高齢化、農業離れなどの課題も顕著になってきているのは岡田も同じです。

稲作を続けるには、経費の問題があります。作ることによって経済的負担が増えてしまい、例えば農業機械がそうです。今まで使い慣れていた機械があればこそ耕作できていましたが、故障等で新しい機械を買うとなるとかなりの高額な出費が必要になります。果たしてそれに見合う稲作ができるかという問題に直面した時、後継者がいない限り、現状では断念するしかないということなのです。

耕作できない水田を継続して行うために、平成19年に岡田営農組合として発足し、現在、株式会社となった『悠久の里』は、岡田の水田の約3分の1、約60町歩(約60ヘクタール)あまりの生産過程を

担っています。代表の西村さんの話によると、「毎年、水田耕作の打診があるが、トラクタ15台、田植機2台、コンバイン3台、大豆用と蕎麦用コンバイン各1台、従業員5名の限られた機械と人員でフル稼働していて、耕作面積にも限りがある」とのことでした。また、「機械のメンテナンスだけでも何十万円、購入となると2000万円というような莫大な資金が必要になってくる」とのことから、米の生産者価格は農業経営者にとつて大きく関わってきます。さらにここでも後継者養成が

急がれており、「大型機械や農業に関心のある人の就労希望を募っている」とのことです。岡田小学校では、授業の一環として毎年5年生がお米作りを体験しています。5月に田植えを行い、水の管理をしながら成長を観察、9月に稲刈り・はぜかけをして天日干ししたお米を脱穀します。JA松



今も続く令和の米騒動は米作りについて考える機会になりました。米の価格だけでなく、将来の岡田の農業、さらに岡田の景観をどう守るか、地域全体の身近な課題だと思っています。

やさしい交流の場 ～町会の地区文化祭～



岡田町

10月26日に町会ごとの地区文化祭が、岡田町、神沢、東区、松岡の各公民館で開催されました。あいにくの雨模様となりましたが、親子連れや地域の方が大勢訪れました。会場内には絵画、手工芸品、写真、木彫、盆栽等、多種多様な力作が並び、図画工作などの子どもたちの作品も一つひとつに工夫と個性が光っていました。手打ちそば



神沢

やお茶席などがあったり、「岡田希望の家」や「となりの縁側おかだ」など地域の福祉施設の方も関わったり、ゆったりとした交流の一日となりました。



東区



松岡

岡田ぼとニュース

地域の祈りをつなぐ 津島様と夜燈様

● 塩倉 ●

塩倉地区にある津島様は、明治初期に疫病が流行した際、疫病退散と人々の健康を願って、愛知県の津島神社から分祀されたと伝えられています。以来、地域の守り神として大切にされ、毎年9月には塩倉・神沢・矢諸の3地区で賑やかにお祭りが行われています。かつて境内には立派な松が何本も立ち並び、その雄大な姿は地域の象徴として長く親しまれていましたが、残念ながら松くい虫の被害により枯れてしまいました。その後、平成28年に地域の方々の温かい寄付によって社が新たに再建され、美しい姿を保っています。その他、「三峰様」のお祭り



9月のお祭り後の津島様

が今も毎年4月に開かれるなど、地域の安全と無病息災を祈る伝統が脈々と受け継がれています。また、東塩倉では「夜燈様」と呼ばれる独特の行事も大切に守られています。これは各家庭で灯明をあげ、家内安全や五穀豊穡を願うもので、式内岡田神社や天照皇大神宮をはじめ、数多くの神社を同時に参拝したのと同じご利益があるといわれています。遠方の神社へ出向く必要がなく、手軽で負担が少ないことから、古くから多くの家庭に親しまれてきました。今もやさしい灯りとともに、地域に深く根づいた祈りの心が静かに息づき、先人たちの信仰と願いが大切に現代へと引き継がれています。

(塩倉 百瀬史志)

ごちゃまぜカフェ 「わくちゃんの わくわく歌謡ショー&カレー会」

10月16日、福祉ひろば主催「ごちゃまぜカフェ」が岡田公民館で開催されました。

わくちゃんこと久井悟さんの歌とギターによる歌謡ショーは、ハラマキコさんのキーボードにのせて北酒場から始まり大盛り上がり。参加者はわくちゃんお手製の昭和歌謡集を手い、口ずさんだり手足でリズム



ムをとりながら楽しい時間を共有しました。

13曲を熱唱したステージはカレー会場に早変わりし、岡田町で活動する「サンサンかふえ」の皆さんが朝早くから仕込んだカレーが振る舞われました。ひろばスタッフに勧められて来た人、笑いが欲しくて参加した人、「サンサンかふえ」のカレーファン、総勢63人で美味しいカレーを囲んで話が弾みました。

岡田との縁を大切にするわくちゃんと大好きなカレーに惹かれて来たハラさん。「来るなと言われてもまた来るよ～」メッセージは爆笑と美味しい匂いに包まれました。来年も10月の第3木曜日に開催予定です。またここで元気に会いましょう！

「家電は十年が寿命ですよ」と聞いたことはありませんか。まさにその通りだと感じた出来事がありました。ある朝、台所に立つと、冷蔵庫の中の食品たちが一斉に「汗」をかいていたのです。牛乳も野菜もぬるくて、嫌な予感。温度設定を確認し、扉を開けたら閉めたりしながら、「そのうち冷えるだろう」と祈るように何度も覗きましたが、一向に冷える気配はありません。ついに観念して電器屋さんへ向かいました。

生活雑記

冷蔵庫の寿命と秋の鍋

東区 暮らしのメモ係

店に並ぶ最新の冷蔵庫は、どれもピカピカ。鏡のように周囲を映し、デザインもスタイリッシュ。節電・急冷・自動製氷・スマホ連携と、機能の多さを目を奪われます。説明書に「今年も長いお付き合いを」と言われながら、を聞くうちに気分も上向きになり、「今なら下取りキャンペーン中です」「設置も無料ですよ」という言葉の連打に、つい心が動きました。そして気づけば、「今後も長いお付き合いを」と言われながら、秋の夜です。

ちょうど鍋のおいしい季節になりました。白菜もネギも大根も、何でもたっぷり入れられます。冷蔵庫の故障は痛手でしたが、温かい鍋を囲む家族の笑顔を見れば、まあいいかと思える秋の夜です。

新しい冷蔵庫は静かで頼もしく、音もほとんどしません。開けるたびにひんやりとした空気が心地よく、庫内の明かりまで柔らかく感じます。

年会費のかかるポイントカードにまで加入していた。電器屋さんの策略、恐るべしです。